

鍼灸領域における国内外の標準化の現況

— 国民への説明責任をはたすために —

東京有明医療大学保健医療学部 東郷 俊宏

国際的な状況

近年、WHO や ISO といった国際機関において、伝統医学分野の国際標準策定の動きが活発化している。鍼灸領域においては、すでに経穴、経脈の名称に関する標準化が WHO を舞台にすでに 1990 年代より存在したが、今世紀に入り、WHO 西太平洋事務局の伝統医学諮問官に Dr. Choi Seng-hoon が就任して以降、1) 経穴位置、2) 伝統医学用語、3) 伝統医学情報、に関する標準化プロジェクトが次々と立ち上げられていった。それらはすべて成果を生んだわけではないが、1 と 2 については、それぞれ成果物出版され、特に経穴位置については 2009 年 3 月に改訂された我が国の教科書においても反映されることとなった。また 3 については、2010 年 5 月に開催された香港会議 (International Classification of Traditional Medicine) を皮切りとして、現在改訂作業が進められている ICD11 (国際疾病分類) の第 23 章に伝統医学領域の疾病分類を導入することを目的として、国際的な作業が進められている。

また、2009 年 2 月には中国が ISO (International Standard Organization) に対し、中医学 (Traditional Chinese Medicine) の包括的な規格作りを目的とした専門委員会の設立を申請し、翌 2010 年の 6 月に第 1 回全体会議が開催された。ISO は、円滑な国際貿易の遂行を前提とした規格策定を各専門委員会での議論をベースに行うが、しばしば国益衝突の舞台ともなり、規格策定は国際的な経済戦争の場ともなる。中国は耳穴、手技、教育、資格など、伝統医学に係わるすべての領域にわたる規格作成を視野においている。

このような国際標準策定の動きに対応するために、日本では、2005 年に日本東洋医学サミット会議 (JLOM: Japan Liaison of Oriental Medicine) を結成し、関係省庁 (厚生労働省・経済産業省) と連絡を取りつつ国際会議に人材を派遣している。JLOM の加盟団体は 1) 日本東洋医学会、2) 全日本鍼灸学会、3) 日本生薬学会 4) 和漢薬学会の 4 学会と、WHO 協力センターである。しかしながら、国家中医薬管理局の全面的な支援を得て、国策として伝統医学の国際標準化をはかる中国や、国立の伝統医学研究所を擁する韓国と比較すれば、日本における伝統医学分野の体制は脆弱と言うほかない。

とりわけ国際会議において、日本の立場を明確にする際に問題となるのは、日本から「標準」として提起できる用語や分類、およびその根拠資料となるべき辞典や教科書が必ずしも十分に存在しないことにある。確かに我が国において、鍼灸医療は、法的にも免許や養成施設、教育に関する制度を有し、東洋療法学校協会の編纂にかかる「標準」テキストも存在する。学術面でも 1990 年代以降の EBM の潮流や、文献学、医史学的研究が進展する中で、鍼灸に関する研究は、大きな進展を見せているが、卒前、卒後教育を含め、業界全体としてそれらが十分に反映されているとはいえない。日本の鍼灸は多様性を有し、その多様性ゆえに優れた臨床効果を上げているとの指摘がしばしば為されるが、その多様性は業界全体のコンセンサ

スとして、文書化され、英語化される準備がなければ、国際的には「存在しない」と同意義であることを再認識したい。特に上述のように、現在国際的には、医療情報学的な観点からの標準化が企図されていることにも最大限の注意を払う必要がある。

国内

国内的な問題は、これまで述べてきた国際的な問題と実は直結しており、今日の国際標準化は、実は国内問題であると考えられる。たとえば、医療機器(鍼灸)の国際標準化、という観点で見ると、現在我が国では単回使用毫鍼のみ規格が存在し、私たちが日常臨床で頻用する鍼電極低周波治療器についてさえ、学術的な安全性調査を踏まえた規格はこれまで存在してこなかった(2011年2月現在)というような状況がある。もぐさに至っては雑品であり、医療機器ですらない。

こうした状況にあって、学会は、業団やメーカーと協力体制を築き、国民に対して鍼灸がいかなる医療なのか、をまずわかりやすく示し、かつ現代医療の中で果たすべき役割を明確にする必要がある。

■東郷 俊宏 (とうごう としひろ)



東京有明医療大学保健医療学部 鍼灸学科 准教授

略歴：

- 1992年 東京大学文学部中国文学卒業
- 1998年 明治鍼灸大学大学院鍼灸学修士
- 2010年 順天堂大学大学院医学研究科修了 博士(医学)
- 1998年 京都大学人文科学研究所科学史研究室助手
- 2001年 京都府立医科大学非常勤講師
- 2004年 鈴鹿医療科学大学鍼灸学部准教授を経て現職

主な学会活動：

- 日本科学史学会
- 日本医史学学会
- 日本東洋医学会 (参事)
- 全日本鍼灸学会 (理事・JLOM 関連委員会委員長)

主な研究業績

Demand for CAM Practice at Hospitals in Japan- A Population survey in Mie Prefecture, Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine, doi10.1093, 2010